

---

# 2人はお似合い？

ユーリ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

2人はお似合い？

### 【Zコード】

Z5232A

### 【作者名】

コーリ

### 【あらすじ】

これは、名探偵コナンアニメ版の『大捜索9つのドア』の裏バージョンです。展開も少し変わっています。

## (前書き)

名探偵コナンアニメ版の『大捜索9つのドア』から分岐したお話です。あの時もし、コナンが帰つていったら・・・あの時、コナンでなく哀が捜査をしていたら・・・と考えて、書いてみたものです。長々となりましたが、本文へどうぞ。

私の名前は灰原哀。

帝丹小学校1年生で、少年探偵団の1人。

といつても、小嶋君達になかば強制的に入れられたんだけどね。

今日私達は、ある事件に出くわしていた。

その事件は、マンションのそばを通りかかった時に起きた。

上から、指輪とS字フックが落ちてきたのである。

3つを組み合わせると、『SOS』の形になる。

小嶋君、円谷君、吉田さんは、誰かがあのマンションのどこかに閉じ込められていて、助けを呼ぶためにこれを落としたと推理した。

私と工藤君は、しかたなく3人についていつたが、イヤな事も起きた。

哀「じゃあ、あなた達は先に帰りなさい。私、トイレに行きたいから。」

元太「そうか、じゃあなーー！」

歩美「また明日ーー！」

光彦「学校で会いましょうーー！」

哀「じゃあねーー！」

小嶋君達が見えなくなつたのを確認すると、私はコシソリとマンションに引き返した。

哀「工藤君は何もないつて言つてたけど、やっぱりコレ、気になるわ・・・」

そう言つて、私は吉田さんから預かっていた指輪と15字フックを取り出した。

哀「どう考へても不自然だわ・・・もつとちゃんと捜査した方がいいかも・・・工藤君はもつ帰つちゃつたし、今回は私一人で捜査しなきやー！」

私は、なんだかやる気が出てきてしまった。

哀「・・・つていうか・・・私さつきからトイレずつとガマンしてたのよおーーー！」

私は、急いでマンションの中に駆け込んだが、大変な事に気づいた。

哀「どうしようー私、入れないじゃない・・・」

「どうかしたのかい？」

哀「え？」

私が振り向くと、さつきのカッフルが立つていた。

「あら？この子、さつきの子供達の1人じゃない？」

「お嬢ちゃん、どうしたんだ？」

哀「実は・・・その・・・トイレに行きたくなつちゃつて・・・」

私は、両手をモジモジさせながら言つた。

「なんだ、そんな事ならオレ達の部屋のトイレ貸してあげるよ。」

「さ、来てー！」

哀「あ、ありがとうございます・・・」

私は彼らについでいて、トイレを借りた。  
その後、ジュークまでごちそうになつた。

「じゃあな、お嬢ちゃん！」

「氣をつけて帰るのよ！」

哀「ありがとござります！」

私は彼らに別れを告げ、部屋をあとにした。

哀「さて、あの人の部屋はつと・・・」

私は、最初に訪れた態度の悪い女の人の部屋に向かつた。  
幸い、名前はメモしていたので、難なくたどり着いた。

哀「ここだわ・・・どうやつて入るうかしら・・・」

私がドアにもたれかかると、ドアがキーンと開いた。

哀「あら？ 力ギ掛けないんだ・・・不用心ねえ・・・」

私は、何のためらいもなく部屋の中に入つていつた。

哀「・・・ん？」

私が耳を澄ますと、部屋の奥から誰かのうめき声が聞こえてきた。

私は、そのまま奥の部屋に入り込んだ。

哀「あ！..」

私の目に写つたのは、手足を縛られ、さるべつわをされた女の人の姿だつた。

哀「や、やっぱりそうだったんだ・・・待つて、今ほどきに行く

から・・・「

私はその時、完全に油断していて、背後から私に近くへ人影に気がつかなかつた。

突然、私は背後から

哀「むごく～～～～」

私はジタバタともがいたが、どう考えても大人の力に勝てるハズがなかつた。

哀 - ハハ・・・・・

私は彼が遠くなつてしまふのを嘆いていた。そのまま倒れて気絶してしまつた。

哀「ん・・・」

「……………」私は田を覚ました。

「私は、アヘンが

わをかまされていた。

木をかまひ木へい木

私はジタバタともがいたが、ダメだった。  
哀「うう・・・」

私が途方にくれていると、あの女人が部屋に入ってきた。

私は、女人の人をにらみつけた。

「お嬢ちゃん、探偵『ラバーズ』にしてもおくれるの？・・・」

私は、言い返す事ができなかつた。

情けなかつた。

私は、工藤君のためにがんばると、あの日、心に誓つたハズだつた。それなのに、こんなミスを犯して、犯人に捕まつてしまつなんて・・・

私は、自分が情けなかつた。

「さて、あそここの女は始末するつもりだけど、お嬢ちゃんはどうじようかしら・・・」

私は、ブルブルとふるえていた。

「あの女を消して、逃げるつもりだつたのに・・・お嬢ちゃんが入つて来ちゃうんだもの・・・」

女のは、ふるえている私をジーッと見た。

「しかたないわ・・・口封じに、このお嬢ちゃんも始末しようかしら・・・」

哀「！！」

私は、ブルブルとふるえた。

私は、あの女の人監禁されていいる現場を見てしまつた。それで、今、私はこの女の人捕まつていて。

この私に、選択の道は残されていなかつた。

「お嬢ちゃんには悪いけど、あの女もろとも死んでもらうわ・・・」

そう言つと、女のはナイフを取り出した。

哀「んん～！～んん～！～」

女のは、ゆつくりと私に近づいてくる。

元はといえば、私の自業自得だ。

私が油断していたから、こんな事になつてしまつたんだ・・・でも、私は死にたくなかつた。

哀「（イヤだ・・・イヤだよ・・・私・・・まだ死にたくない・・・やりたい事、これっぽっちもやつていないので・・・た、助けて・

・・工藤君・・・！～！）」

私は、涙を流していた。

女のは、ナイフを振り上げた。

「覚悟しなさい・・・」

哀「ん〜！！！（イヤアーーーー）」

私が悲鳴をあげ、女人人がナイフを振り下ろそうとした、その時だつた。

「そこまでだ！！！」

「何！？？」

哀「（え？）」

私と女人人が振り向くと、そこには工藤君と、さつきの男女ペアが立つていた。

「ど、どうやつて入つたの！？」この部屋のドアには、力ギを掛けていたハズなのに・・・」

コナン「この2人に体を支えてもらつて、博士にもらつた『何でも開けゝる』でドアを開けたのさ。」

「ク、クソ！」

女人人は、工藤君に襲いかかるうとしたが、それよりも早く工藤君が麻酔銃を放つた。

パシユツ！

ブスッ！

女人人は、気絶した。

コナン「灰原！！」

工藤君は私に駆け寄り、縄とさるぐつわを解いてくれた。

その向こうで、男女ペアのうちの男の方が犯人の女性を縛り、女性の方が捕まつていた女性を解放していた。

コナン「灰原、大丈夫か？」

哀「う・・・うう・・・江戸川君〜！！！」

コナン「うわっ！！」

私は工藤君に抱きつき、泣き出してしまつた。

哀「え〜ん、え〜ん・・・江戸川君・・・私・・・とても怖かつたよお・・・」

コナン「大丈夫だよ、灰原・・・」

工藤君は、泣きじゃくる私をそつと抱きしめてくれた。

それからしばらくして、工藤君達が呼んだ警察が到着し、女は無事逮捕された・・・

普通なら、これで終わりなのだが、そうはならなかつた・・・

翌日・・・

元太「コ・ナ・ン・・・・」

歩美「は・い・ば・ら・さ・ん・・・・」

光彦「こ・れ・は・ど・う・い・う事ですか〜?」

コナン・哀「ど、どうしたの3人とも・・・・」

私と工藤君は学校に着くなり3人に囲まれ、詰め寄られていた。

光彦「どうしたもこうしたもありませんよ!何ですか、これは!...」  
そう言つて円谷君がバン!と机にたたきつけた今日の朝刊には、昨日の事件の事が一面に載つていた・・・

コナン・哀「あ・・・・」

私と工藤君は、一面を見て、啞然とした。

一面には、私達の事がしつかりと書かれていたからだ。

『帝丹小学校少年探偵団の美男美女カップル、女性拉致事件を見事解決!!』イヤー、あの2人は本当に頼りになるんですよ!佐藤君が、大人になつたらぜひひ警視庁に入れましようとはりきつてましてなー!』と日暮警部は語る・・・』

コナン「日暮警部・・・・」

哀「私達の事は伏せておいてつて言つたのに・・・  
写真までついていては、もうごまかしようがない。」

元太「オマエらあ〜!..」

歩美「またヌケガケしたわねえ〜!..」

光彦「許しませんよ～～！」

コナン・哀「う・・・うわあ～つ～～！」

私と工藤君は、小嶋君達に追い回され、帝丹小学校内を逃げ回った。  
そして、彼らが私達を許してくれるまで、さらには3日かかった・・・。

(後書き)

どうでしたか?よかつたら、挿し絵のような物も送つていただける  
と幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5232a/>

---

2人はお似合い？

2011年10月3日04時52分発行